

笑顔の ひろば



vol. **20**

新年号

発行

2013年1月10日

川崎協同病院広報委員会

川崎市川崎区桜本 2-1-5

TEL:044-299-4781(代)

FAX:044-299-4788

<http://kawasaki-kyodo.hosp.jp>

シャトルバスの運行を始めます ～患者さんの利便性向上と体制拡充の1年に～

みなさま、明けましておめでとうございます。

今年は患者さんがより便利に、より安心してかかることが出来る病院づくりの1年にしていきたいと考えています。

まず今年は早い段階で、川崎協同病院と同じ法人の大師診療所、京町診療所、川崎セツルメント診療所それぞれを結ぶシャトルバスの運行を予定しており、現在準備を進めています。患者さんの利便性がより高まれば嬉しく思います。

体制面では、一昨年より、当院では地域のニーズに応えるために、回復期リハビリテーション病棟の拡充を進めてまいりました。昨年は新たに言語療法室も2部屋増やし、併せてセラピストも増員しました。92床ある回復期リハビリテーションの病床は、地域の医療機関の皆様との連携で順調に運営できております。ベッド稼働率は99%、在宅復帰率は72%で、入院までの待機期間は、14日だったのが8日から9日まで短縮しました。

疾患別では、整形疾患53%、脳血管疾患45%、廃用症候群2%でした。昨年は365日リハを目指しましたが、リハビリテーション職員の獲得が目標に及ばずできませんでした。今年には職員確保の目途がたち、年度内に実施できるようになり、リハビリの充実も目指していきます。

産科では、昨年夏に常勤医師2人体制になり、地域のお産ニーズにより応えられるようになってきました。さらに今年は4月にもう1人、産科医師の海外留学からの帰任が予定されており、より安全な産科医療を目指していきます。

小児科は現在は常勤医師4人体制ですが、4月に院外研修より帰任し体制が拡充します。地域の子どもの健康を守る者としての役割をますます果たしていきたいと考えています。

在宅医療では昨年、協同ふじさきクリニックとの連携で、在宅療養支援病院を（協同ふじさきクリニックは機能強化型在宅療養支援診療所）取得しました。地域の開業医の皆様が診ていらっしゃる在宅で療養されている患者様の急性増悪に伴う入院の要請には積極的にお応えしていきたいと思っております。

また当院の放射線科は常勤医師の2人体制ですが、今年には緊急のCT/MRIの撮影と読影の要請にも積極的にお応えしていく仕組みを構築してまいります。地域の医療機関の皆様とも連携できればありがたいと思っております。

今後とも地域の皆様のご指導とご鞭撻をお願いしまして、新年の挨拶とさせていただきます。本年もどうぞよろしくお願い致します。

院長 田中久善



田中院長（前列中央）を中心に
管理部一同、地域の健康を守る
取り組みを進めます。
（川崎区の市街地を背に協同病院
屋上にて）

放射線科って どんなトコ?

現在、放射線科には常勤の放射線科医師2人と診療放射線技師14人が在籍し、川崎協同病院を中心に6つの診療所に勤務して地域の健康を守るお手伝いをしています。

放射線科ではX線撮影や胃のバリウム、MRI検査などさまざまな検査を行っていますが、なかでもCT検査は重要です。



画像読影する福永淳医師（左）と深井道介医師（右）

乳がんの早期発見に役立つ
マンモグラフィー▶



私たちは地域の医療のニーズに応えるべく、常勤放射線科医がいる強みをいかして、“断らない検査”の体制作りに取り組みました。

現在、急ぎの場合は、撮影依頼から検査結果を返すまで1～2時間で行えるようになりました。また、検査画像はCDやフィルムにして提供することができますので、近隣医院との連携も容易です。

もうひとつ関心の高い検査に、乳がんを早期に発見するマンモグラフィがあります。川崎協同病院では、判定医・撮影技師並びに検査機器とも認定を受けています。検査は女性技師が担当しますので、安心して受けていただくことができます。今年は女性技師が新たに加わり、体制もより充実しました。

より良い検査が提供できるように努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。

放射線科 科長 山本晋二郎

“チーム医療”で医療倫理の向上を ～川崎協同病院医療倫理月間～

川崎協同病院では毎年12月を医療倫理月間と定め、職員全体で医療倫理の向上に努めています。今年のテーマは『チーム医療』です。医師、看護師、コメディカル、事務のそれぞれが職種の壁を超えて相談しあえる関係や『おかしいかもしれない…』と感じた時に率直に言い合える職場をつくり、倫理問題へと発展させないということを目的にテーマを策定しました。

これまで医療倫理問題については、終末期医療やDNR（蘇生措置拒否の意思表示）の運用など、少し専門的なことがらが目立ち、距離を感じる職員がいたことは事実でした。しかし、今回は医療倫理というよりは医療安全に近いと思うようなテーマを敢えて設定をしました。

チーム医療を徹底することは医療の安全性を確保することはもとより、一人（独断）による診療行為で起こり得る医療倫理上の問題を防ぐことができると考えるからです。川崎協同病院は『一人で決めない、一度で決めない』ということを医療安全の標語にしています。この標語は診療行為を一人の



医師だけで決定するのではなく、他の医師、他の職種がそれぞれの専門性から様々な角度で検証し、重大な過ちを犯さないようにつかったものです。

12月13日の職場責任者会議では、まず医療倫理月間スタート集会を行いました。そこで事務長がテーマの趣旨説明を、また看護部長が問題提起と学習提案を行いました。取り組みの中で、気がついた事例を職場で討議し、報告することも提起されました。

多くの事例と討議をまとめ、報告することでチーム医療についての考えを病院全体で深めていきたいと思えます。

月間を終えた1月24日には横浜市立大学医学部医療安全管理学教授の橋本迪夫先生を招いての医療倫理月間まとめ集会を予定しています。

川崎協同病院の医療倫理と医療安全がより向上するよう、この月間で意識を高め、継続してこの課題に取り組んでいきたいと思えます。

医師事務室 医学生担当 木下博志



私が担当します！

ますます地域に貢献できる産婦人科へ

初めまして、川崎協同病院で産婦人科医として勤務している高橋肇です。大学病院の医局に所属して大学病院、中規模病院に勤務し、その後、開業している医局の先輩の医院に勤務していました。

最初のうちは「所変われば品変わる」ではないですが、診療システムが以前と違うため戸惑っていましたが、ここで勤務して6ヵ月になり、すこしずつ馴染んできました。産婦人科常勤医一人で5年以上やってきた佐藤産婦人科部長の少しでも助けになればと思っています。



高橋肇 医師

弘前大学卒、日本医科大学第一病院入局、日本医科大学付属千葉北総病院、日本医科大学多摩永山病院、葛西臨海病院、神奈川県立がんセンター、北島産婦人科医院で勤務。



また、医師・医療スタッフの自己満足ではなく、患者様がより安全な分娩・診療が出来るように努力していきたいと思っています。

患者様の要望に応える事だけが患者様の為になる訳では無く、時によれば患者様の要望でない事が患者様の為になる事も多いと考えています。患者様とコミュニケーションを取りながら、地道に患者様の事を考える診療をしていけば、地域に貢献出来ることと考えています。これから宜しく御願ひ致します。

TOPICS

トピックス

国を超えて学び合う 安城医療生協の視察をおえて

2012年10月12日から15日の4日間、韓国 安城医療生協との交流および日韓の歴史を学ぶ旅に、職員7人、地域の組合員4人で出かけました。

安城医療生協との交流は2000年から始まっています。それ以来お互いが行き来して、生協運動の経験や課題を共有し、学び、韓国の生活や文化、歴史に関する理解を深めてきました。

安城医療生協は、静かな農村地帯の中にあって、訪問した時期は日本と同じ柿の実った秋でした。忙しい時期にもかかわらず、診療所には多くの職員や組合員の方々が出迎えてくれました。そこでは理事長および専務理事から韓国における医療生協の歴史が語られました。

健康は個人の問題ではなく、地域の問題であること。職員は地域の人が生きていけるかどうかを目をむけて医療活動をしているといきいきと語られました。歯科クリニックも訪問しました。その会議室では、糖尿病患者の学習会が開かれていました。先輩患者の経験を聞くことが学びとなり、合併症を悪くしないために、1回20人くらいの患者さんが自ら学びを求めて集まってくるそうです。

夜は歓迎会を開いていただき、手料理と歌や踊りで大いに盛り上がりました。最後に理事長は「ひとりには万人のために、万



安城医療生協ロゴマーク



交流会での歓迎の出し物の様子

人はひとりのために」両生協が努力していきましょうという言葉を残されました。

安城医療生協と交流を行う中で、国は違っても地域住民と共に歩む医療生協の運動・事業の世界的な前進に確信を深めることが出来ました。

看護部長 八木美智子



視察団と現地スタッフで

「日本のまつり」が桜本商店街で。 国際色豊かに、健康チェックも

「ヨイショ！」という威勢のいい声が商店街に響きます。11月18日（日）、川崎協同病院のお隣、桜本商店街で“お祭り”がありました。

「桜本商店街・日本のまつり」は、地域の人々がふれあい楽しみながら、これからの桜本商店街振興組合がどう進んだらいいかを内外にアピールするという目的で開催されているそうです。桜本は在日韓国・朝鮮人の方が多く住む地域であるため、キムチ、チヂミといった韓国料理の出店もあり、昔ながらの日本の祭りにあわせて、国際色豊かな雰囲気があります。

川崎協同病院は地域の一員として毎年参加しています。病院からは餅つきの出店をしました。杵を付く音と「ヨイショ」という合いの手の声が響きます。当日は人通りも多く、大盛況で、川崎協同病院の出店の前には行列ができていました。売れ行きも好調で終了を待たずに売り切れとなりました。

また、医療生協の組合員さんによる「まちかど健康チェック」も行われていました。血圧測定と体組成チェックをしてもらい、その結果から、あとで看護師さんにアドバイスを受けることもできるので好評でした。

私もチェックしてもらいましたが、結果は「肥満型・・・」。日頃の運動不足を感じました。



川崎協同病院の餅つきブースで「よいしょ」

みなさんも「体組成チェックで健康管理」してみませんか？

祭りの方は、多くの人出でにぎわい、和太鼓やブラスバンドの演奏などいろいろなイベントもあり盛り上がっていました。

祭りの締めには、神輿が練り歩き、和太鼓の演奏とともに幕を閉じました。

大人も子どもも笑顔が多いのは、地元へのやさしい愛着があるからでしょう。地域の繋がりを感じるお祭りでした。

今回は桜本商店街の魅力を再発見しました。

皆さんも川崎協同病院にいらっしやることがあれば、立ち寄ってみてはいかがでしょうか？

医事課 今藤直之



健康チェックも大盛況



熱気に包まれた桜本商店街

デザインをリニューアルした『笑顔のひろば』はいかがでしたでしょうか？新たなデザイン、新たな気持ちで新年を迎えることができました。

さて、新たな年を迎えると必ずといっていいほど頭に浮かぶことがあります。「看護師国家試験も、もうすぐだなぁ…」と、どうしても考えてしまうのです。なぜなら、私の仕事は新卒看護師を確保することだからです。この仕事は、まず最初は、看護体験などを通して繋がりができた看護学生に病院を好きになってもらい、つぎに奨学生になってもらうことです。そして国家試験を突破してもらい、看護師として就職してもらうことを目標としています。

看護学生が国家試験へのプレッシャーを感じはじめるころになると、私はソワソワしてきます。看護学生が日々、膨大な量の課題やレポートに追われ、実習中は寝不足の日が続く、そんな姿を近くで見えてきたからこそ、この国家試験に臨む学生の気

持ちや緊張が痛いほど伝わってきます。

願うのは、奨学生がそろって全員合格することです。私たちにできることは病院スタッフ全員で応援メッセージを書いたぬいぐるみを贈り、そして学生を信じて待つことです。

3月25日の国家試験結果発表日をみんなで笑って迎えられると信じています♪

看護学生担当事務 山西未希



合格祈願のぬいぐるみ